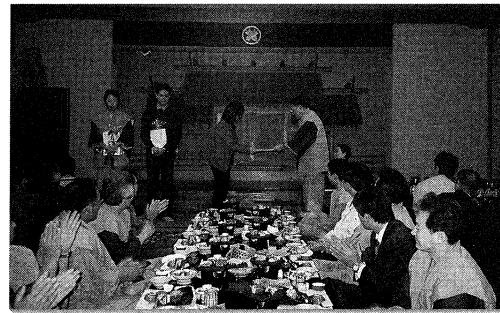




▲2002.12.11 本音で語る会 (保存問題について)



▲2002.12.11 忘年会



2002.12.1
プレ信毎見学会
(第3回町並み見学会)



副会長 上村保弘
(事業委員会・まちづくり委員会担当)

トピックス

～自分たちのまちづくりは自分たちの手で～

すでに何回かこの巻頭言を書かせて頂く機会に恵まれましたが、今回はどうしても気になってならないことを私なりに整理しましたので、一人でも多くの皆さんにご覧になって頂ければと思います。結論を先に申し上げますと、「自分たちのまちづくりは自分たちの手で」と「需要の創造の提供」のふたつです。

よく私たちは設計の仕事を行う場合、基本計画、基本設計、そして実施設計へと入って行きますが、発注=設計へと期待を持って仕事に当たります。右肩上がりの景気の良い時期には、この構図の通りに近い形で仕事が流れていました。しかし、景気の低迷から脱しきれていない現在では、この構図のような形で仕事を受注することがいかに困難なものになってきているのかは、改めて書くには及びません。設計した建築に入るべきテナントが思うように見つからず、空き室のままであったり、挙句の果てには、この初期投資の段階で、資金繰りに負担が掛かりすぎ、計画段階での事業破綻という事例は数えたらきりがありません。このような社会情勢の中では、テナント誘致も一緒にバックになった、ディベロッパーなどの事業提案に建築を考えているクライアントは魅力を感じざるを得ないのは当然のことと言えるかもしれません。しかし、このような経緯によって作られた建築が、どのような結果をまちにもたらしたのでしょうか？

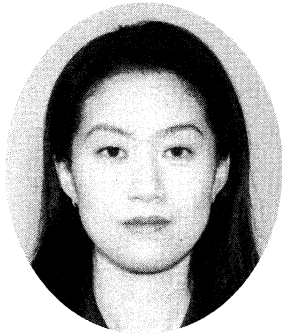
景観の喪失、文化の寸断、コミュニティ連鎖の危機など、様々な弊害を残しています。建築家は、医師、弁護士に並んで非常に大きな社会的責務を担っています。単にクライアントのプライバシーに直接関わる業態であるだけではなく、まちという社会資本の形成に関わるという重大な社会責任も持っています。まちについては、そこで生まれそこで育った人間が一番詳しいですし、愛着も持っているはずで、まちを愛する姿勢

が根底にあった上で建築の設計に関わる場合と、ビジネスライクに割り切った仕事としての建築は、当然結果は違います。

私たちは、ビジネスチャンスの喪失という視点だけでなく、きちんと自分たちのまちを自分たちの手によって建築の質という視点でも蘇生させる責務があります。このように両者が喪失した背景には、「技術力不足」と「実現可能性の説得力不足」が考えられます。両者とも技術力が共通要因となっているのですが、この結果、地元の建築家の起用ではなく、建築を対象とする地域にはなんの関わりもない企業によって建築されてしまうという悪循環から脱却できないでいます。この問題を解決して行くために、もうひとつの提案をさせていただいています。それは、「需要の創造の提供」です。これは1月9日付け日経新聞に某コンビニエンス会社の経営トップが、経営、需要飽和にどう対応するのかという記事が記載されていました。詳細は割愛しますが、消費低迷の最大の要因は不況による消費低迷ではなく飽和であり、徹底した消費者ニーズに立った思考で需要を創造して行くことこそ、現在のこの不況に勝って行けるというものでした。これを私たちの課題として考えて見ますと、単にハードの設計へいきなり着手するのではなく、現況の状態をきちんと分析して、目標をどのように設定していけば、最適な建築の計画が立案できるのかということに他ならないのではないかと思います。

いまこうした厳しい環境下で私たちが様々な課題を解決して行くには、小さな力ではまだまだ困難かもしれません。しかし、得意な分野を活かし連携を取りながら取り組んで行ったら、相当な大きな力になるのです。私たちの子々孫々までまちの文化を伝承させていくためにも、腰を上げる時期が来たのではないのでしょうか。

新春特集「新入会員の抱負」



池森 梢

『いつでも笑って過ごしたい。』/私のすべての行動の根拠です。

潤いを持った笑いの中に居るために、生活をし、仕事をしています。

確かな動機で建築を選択し大学に進んだ訳ではなかった私は、学生最後の冬にゲーテアヌムに出会いました。バスを降り何の予備知識も無く丘の上がると、ゲーテアヌムは特殊な空気を纏い、ずっと昔から精神と共にそこにあるかのように私を包み込みました。その場所全体が現実感を帯びない、凜とした幻想的な空気感を放っていました。私は木の梢から毀れるような心地よい光を感じつつ、それまで感じたことの無い空間に衝撃を覚え、建築の力を身を持って体感することとなりました。「力を放つ建築を創りたい。」建築の道に進むことに確信が持てた瞬間でもありました。それ以後、いろいろな場面で「建築の力」とは何かを考えてきたように思います。

人は空間によって様々な影響を受けていると思っています。だからこそ今、幾つかの住宅設計を手掛ける中、住まい手にとって心地よい、笑いの生まれる空間を創りたいと考えています。私は建築に携わり、苦しくも楽しく潤いを持って歩むことができることに心底喜びを感じています。これからも、楽しく、明るく、久しく、ゆっくりと、誠意を持って進みたいと思っています。すべての出会いに感謝しています。



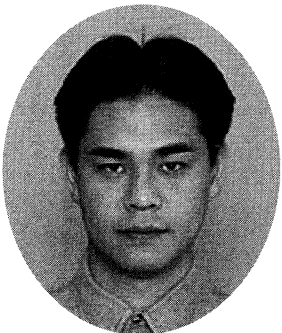
上條みゆき

この大きな出会いに感謝を込めて

昨年はいい年だった。いい職人さんや施主に恵まれた。恩師、旧友との再会、良い出会いがいくつもあって、仕事に繋がっていったりもした。忙しい毎日だったが充実していた。

関係ないが、家族も怪我病気なくそれぞれが楽しく日々を過ごしていた。(主婦でもあるので結構重要だ) 最大はやはりJIAに入会したこと。場違いかなと心配もしたが、皆様優しく温かい方々で(意外にも純粋で)、寛大に受け入れて下さった。さすがは建築界の最高峰!と大感激。

そんな素晴らしい方々との出会いの後、幕のあいた2003年。自分としてもいろいろと考えてみた。建築家協会会員・・・ことは私も建築家ってこと? もしかしたら実務家としての王道を突き進んでいるのかも。なんて大きな勘違いをしたまま、調子に乗って進んでしまおうかと考えている。私は運がいい。今までも絶妙なタイミングでよい出会いがありその度にステップアップしてきた。と思う。自分に何ができるのだろうか。自分にしかできない事もあるかもしれない。ここまで来たらあると信じて進んで行くしかないか。それをJIAの活動を通じて学んでいきたい。どうか尊敬するJIAの諸先輩の方々、宜しくご指導お願いしたい。もう私を受け入れてしまったのだから。



(有)みずぎ設計 中家博之

この度、事務所の上司の推薦を受けてJIAに入会しました中家博之(なかや ひろゆき)と申します。入会に当たり、本部及び長野県クラブから多くの資料を頂戴し目を通しました。

年間を通じて様々な活動が行われていますが、この活動に出来る限り積極的に参加をして先輩方の色々な考えや意見を聞いて、自分自身の考えや知識の幅を広げていく為の勉強をしていきたいと考えています。この会に参加して経験豊富な先輩方の意見や貴重な体験談を聞いたり情報交換が出来る事は経験不足な私にとって何よりも勉強になるだろうと思います。これからは、今まで以上に専門家としての意識と責任感を持ち、常に自己研鑽を続ける努力をし個性を磨いていかなければならないと身の引き締まる思いで一杯です。

色々荒削りで不器用な私ですが、気軽にお声を掛けて下さい、よろしくお願い致します。

〈私の簡単なプロフィール〉

1969年(昭和44年) 飯田市生れ、33才独身

平成2年~8年まで(株)宮本忠長建築設計事務所に勤務

現事務所は6年目になります。 趣味:音楽鑑賞、ドライブ、モータースポーツ観戦



藤松建築設計室 藤松幹雄

先日、愛知県の豊田市美術館にアルヴァー・アアルトの住宅展を見に行き来しました。会場は柔らかい薄明かりに包まれ、その中に住宅模型が照らし出されており、インテリアも忠実に配置され、実物の内部空間を体験した感覚になるような、構成になっていました。

豊田市美術館も美しく快適であり、閉館までのんびりと有意義な時間を過ごすことが出来ました。

建築設計を天職にしようと思ったのは、このような魅力溢れる建築と建築家との出会いで、松本でまちづくり活動をしている建築家のかたがたを知り、地域に根ざし信州の風土に合った建築という目標を与えてくれたのも、この出会いからです。

私は更なる出会いを期待して、JIAに入会しました。建築作品という形で設計はできませんが、自分の意思に反するようなことはやらぬ様、勤めて行きたいと思っています。設計した建築を見て私を選んでしてくれる方がいる限り、クライアントを裏切らぬよう、期待以上の物を造らなくてはなりません。

先輩方の作品を見学し、勉強させてもらいながら、魅力ある建築が設計出来るよう、がんばって行きたいと思っています。



坂牧弘之

この度入会をさせていただきました坂牧です。どうぞよろしくお願いいたします。

何か文を添えるようにということですので思うままに…。

建築の勉強を始めたころは当時は巨匠という建築家の方々がまだ大活躍中で、時間があれば名建築を見て廻ったものでした。何故かしら巨匠の建物でも丹下健三などの巨大建築は好みとしては嫌いで、見て廻るのはいたって小建築のディテールの凝縮された小作品で、好んで良く見たものは村野藤吾、吉阪隆正、今井謙次、白井晟一各先生のものが多く、作品のほとんどは見えて廻っていました。

最近のはあのころ村野先生が言われた言葉のいくつかが思い出されてきます。玄関の天井は低く押えるとか、設計事務所は事務所の建物にお金をかけてはいけないとか、そんな言葉がふと思い出されます。

事務所のことは何か今の時勢を予測していたかのような言葉です。思い起こせば何か忘れてしまっていたようなところが多大にあることに気がつきます。

あのころの建築の勉強を始めたころのことを忘れずにこれからも建築をじっくりと作っていききたいと思います。

よろしくお願いいたします。

「技術交流会」、「本音で語ろう会」報告 西沢利一

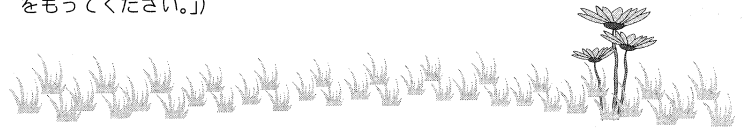
暮れのJIAニュースで報告がありましたが、12月11日、松本・美ヶ原温泉「旅館すぎもと」で開かれた会は大変盛況でした。技術交流会は、新鮮な情報が得られて良かったと思います。また、本音で語ろう会では、保存問題を中心にグループ討議が行われました。

大変、俯瞰的テーマ的(まと)が絞りにくく、結論的に歴史の継承という意味では、嘉永六年にペリーが浦賀に来港以来、日本の近代が始まった。そこからのDNAを引きずって、我々が一生懸命、先輩達が格闘して得てきたものを未来に伝えようとしているという事だと思います。

よく考えると、今まで知らず知らずのうちにこういった事をやっていたのでしょう。今回の保存問題長野大会を機会に、過去の足跡を振り返って見ると、もしかしたら、これから先の生き方が見えてくるかも知れません。世の中が斜陽になってきている今、大変自己中心的な人間が目立ってきている訳ですが、近代を造ってきた先輩諸氏は、自己確立を目指していたような気がします。

この「本音で語ろう会」の本音のテーマは、人は孤立しては生きられないので、みんなで思いやり、助け合い、その中で自己を確立していくことだと思います。(思い上がった人間に思いやりは難しい事ですが・・・) でなければ、大勢が集まって時間をかけて話し合っているのが、何の意味もなくなってしまいます。意識の持ち方ひとつで、石にも宝石にもなる、この会はずいぶんとやっていると思います。本音はきっと未来という街角に立っている場かも知れない。深夜に及ぶアルコールで理性が保存できなくなってきたので、温泉に入って仕切り直しをしました。(仲間っていいもんだなあ～！)

この素晴らしい旅館を設計された川上さんにも感謝しながら、保存問題長野大会の成功を念じています。(最後にチクリ・・・「みなさんもう少し経済観念をもってください。」)



ひとり言 会員の皆様からの「声」を掲載するコーナーです。

危機感KIKIKAN — 希望KIBOU 児野 登

- ・建築設計と言う仕事は人々に本当に受け入れられているのだろうか。
- 人々が自分の判断をきちんと持ち建築家を選択する時代。
- ・建築設計という仕事は、時代の若者に、自分達の子供に引き継がれて行くのだろうか。
- 資格を得て建築家になるには弁護士並みに大変な時代になる。
- ・でも建築家ってなあに？50年後か。
- ・人生50年が過ぎ満足な生活が送れているのだろうか。まるで何かに追われるような生活。
- 経済的な事務所運営から離れ一人の建築家となる。
- ・これから先の自分の望みはなんなんだろう。地位か名誉かはたまたまお金か。いっしょに働く所員達は仕事にも自分の生活にも満足しているのだろうか。
- 設計だけに没頭したい。そんなかつてなこと家族だって認めない？
- ・地域に根ざす建築家とは。自分の仕事は本当の意味で地域に根差しているのだろうか。地域に根ざすイメージが湧かない。地域の人たちに本当に必要とされているのだろうか。
- 町会ごとに自分達の街の模型を持ち、街づくりサロンに置いてあり、専属の街づくりアドバイザーに建築家を雇っている。

- ・設計の受注希望型入札、落札率30%どうやって生きていくのだろうか。設計者、建築家の生き方として、誤魔化しは無いらぬか。
- ・ハウスメーカーや設計施工による設計者は何枚でもとことん無料サービスで図面を描いてくれるのに、設計事務所でも描いてもらうと1枚10万円もするのとか言う。どうやって生きていくのだろうか。誤魔化しは無いらぬか。
- そんなこと言われたくない。設計の入札は止めたい。分って欲しい、純粹に生きていきたい、がんばるぞー。
- ・公共建築は本当の意味で市民のものとなっているだろうか。市民は市民の税金で建てているという自覚があるだろうか。
- 自立した市民として行政と対等に生きていきたい。市民としての我々が必要とする夢と希望に溢れる建築が身近に誕生した。

危機感と希望の間は愚痴だった？ ひとり言だからいいか.....



エコー 賛助会員の皆様からの提案などを掲載するコーナーです。

環境配慮、循環型の提案企業を目指して

綿半鋼機株式会社 宮下義雄



新年明けましておめでとうございます。昨年はJIA活動を通じまして、私達賛助会員一同たいへんお世話になり、誠にありがとうございます。特に、あすなる見学会においては、建築家のコンセプトや夢、楽しさ等を肌で感じる事ができて、貴重な経験となりました。また、ゴルフコンペ等交流会におきましても、大いに盛り上がり、一体感を感じる事ができました。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

少々、当社のPRをさせていただきますが、綿半鋼機では「環境配慮・循環型の提案企業を目指します」をスローガンに、

- (1) 自然エネルギーの利用
- (2) 省エネルギーシステム
- (3) 廃棄物処理機器・システム
- (4) 環境衛生商品・システム
- (5) グリーン・リサイクル商品

の企画立案・販売を展開しております。

それぞれの分野、例えば製造工場・事業所・食品工場・スーパー・ホテル等宿泊施設・病院・老健施設等での環境と衛生に関する顧客ニーズに沿った、最善の機器やシステムのご提案をし、問題解決策(ソリューション)をご提供したいと考えております。建築分野で今まで培ってきたノウハウに加え、環境システムのご提案を加える事によって、綿半鋼機は顧客満足度(CS)を満たす努力を致します。

何かお困りの点や、ご要望がございましたら、まずは当社までご相談ください。重ねてよろしくお願ひ申し上げます。

少しの環境保全とこれからの設備

ダイダシ株式会社社長 水野 三郎

今年は1月から「かみゆき」が降り、異常に雪の多い冬となっております。我々の建設業界も、ブリザードが吹き荒れ、長野県からの設計業務発注が郵送入札になり、予定価格の30%~35%で決定することが続いています。土木、建築工事関係も、この2月から設計業務同様、郵送入札になります。どんなことになるのか、先が全く見えない状態ですが...

さて、話は変わりますが、今回はいま盛んに云われている「環境」について設備業者として少し考えたいと思います。

地球環境、自然環境の保全が大きな問題、課題となっています。自動車業界では水素と空気を燃料とする燃料電池車が、電力業界では風力発電、ソーラー発電などが積極的に研究・開発されています。家庭に目を移せば、ゴミの分別収集により、リサイクルや自然還元が行われています。では我々の設備業界はと申しますと...皆様ご存じの空調設備を例に挙げれば「冬は暖房、夏は冷房」と全く自然に逆らうことが生業となっております。そこで我々の業界では「太陽熱利用」、「地下水の熱利用」、「ノンフロン空調機」、「石油燃料を使用しない機器」、「廃ガスをクリーンにする設備」、「廃ガスの熱利用」、「高効率な機器の開発」、「空調効率の高い床下吹き出しの研究」、「人にやさしい輻射空調技術」など新技術が出現しつつあります。どれも未だ研究・開発の余地がありますが、我々はこれらを積極的に提案し、採用実績を増やして行かなければなりません。が、しかし、現段階ではこれらの機器、設備を採用した場合、ランニングコストは下げられても、イニシャルコストが上がるものが多いのも事実、工事業者として採用を見送らなければならない状況です。受注コストに合わせると、環境無視の状態と言っても過言ではないでしょう。ですが、このままでは我々設備の技術屋としてあまりに先がない話なので、ここはひとつ、JIAの皆様方にご提案を申し上げます。人、建物にやさしい「冬季の加湿設備」や空気排熱回収のための「熱交換機」の積極的な採用をお願い致します。

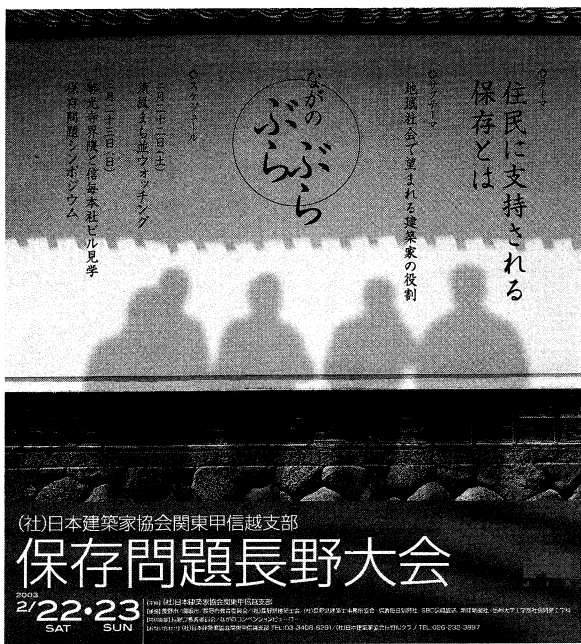
我々業界に、いつになるかはわかりませんが、また春が来ることを期待しつつ、JIA会員の皆様方のご清栄を祈念申し上げます。

保存問題長野大会

2月22日(土) 12:00 ホテル長野国際21集合 受付
 14:00 須坂まち並ウォッチング 説明案内「須坂町並の会」
 ↓
 16:30
 17:30 ホテル長野国際21チェックイン(メイン会場)
 御本陣・藤屋チェックイン
 18:00 懇親会・長野国際21 受付
 ↓

2月23日(日) 9:30 信濃毎日新聞本社本館見学 受付
 ↓
 10:30 地域サミット 御本陣・藤屋(食堂)
 10:30 御本陣・藤屋見学 説明案内 地域会担当者
 ↓
 12:00 善光寺周辺まち並見学 説明案内 地域会担当者
 ↓ 各自昼食
 13:00 保存問題シンポジウム ホテル長野国際21 受付
 13:30 「住民に支持される保存とは」
 ↓ コーディネーター 保存問題副委員長 安達 治雄
 パネラー講師 工学院大学助教授 後藤 治
 須坂須坂町並の会 浦野 治朗
 長野地域会 川上 恵一
 17:00 終了・解散

〈問い合わせ先〉
 事務局 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303



第3回町並み見学会報告

【信濃毎日新聞本社館・大門町】編 久保 隆夫

師走のはしり、12月1日(日)にまちづくり・保存問題委員会の企画により第3回町並み見学会が行なわれた。今回は殊に『2003保存問題・長野大会』(関東甲信越支部)を2月22・23日に迎えるにあたりその企画、準備会議も併催された。当日支部からは、小西委員長、篠田委員ほか大会執行部も参加。大会の見学対象である信濃毎日新聞社への協力依頼(保存に対する協調支援の意味もあったか……)を正式に申入れ、その後の会議では長野大会の成功に向けての助言など示唆いただいた。見学会は午後1時、信毎本社に集合。天候は曇り。寒い日だった。このところ学生・賛助会員の参加が多いのも頼もしい、総勢25名の参加。『信濃毎日新聞社・本館』はRC造・3階建て・約2930㎡。竣工は大正12年。設計は建築家・佐藤功一氏(当時早大の工学博士)による。——佐藤先生は大正から昭和の初期にかけて39年間に230余件という膨大な作品を手懸け、まさに当時の建築界をリードする巨匠であった。作品には「日比谷公会堂」「早稲田大学・大隈記念講堂」「帝室林野局」ほか記念建築が多く、特に栃木県庁舎は晩年の力作、現存する貴重な作品である。信毎本館は当代の小坂社長が「建設費を惜しまず将来に備えて理想的な社屋を建てるべし」との熱意により佐藤功一氏を招いたのであろう。まさに当時の「大旦那」が残した遺産である。——折しも平成15年3月には、(現



小坂社長により……?)再び新社屋の建替え工事がはじまり残念ながら現本館は取壊される予定となっている。まずは傷みはあるが貴重に保存された当時の(勿論、手描き・尺寸法表記である)陰画焼き図面を皆で覗き込む。まだ建築基準法がない時代にしては鉄筋量も多く、堅牢な仕様に吃驚。館内の階高15尺(4,550mm)の荘厳な執務空間は、近年、機能至上主義により失われてきた「品格がある豊かな空間」を体感したのは私だけではなかったと思う。内外装は随所(柱脚・頭、棹廻り、天井など)に施されたオーダー/装飾には職人の技・芸と意欲を感じざるを得なかった。概して外来の擬洋風建築に見えるが、左官技術でより単純化したオーダーなどは、外来様式に手を加え「和」の感性に仕上げている。つまりわが国起源でないものに時間と知恵を注ぎ、自分たち固有の文化に調和させたあたりは、まさに『日本的なるもの』ではあるまいか。保存できるのか否か……? モヤモヤした気持ちで一路大門町へ! =以下略=

【追記】いよいよ保存問題・長野大会も押し迫り、準備に大忙しです。こんな機会には委員会任せでなく、全員のパワーで乗り切りたいものです。

クラブアウトサイド

支部役員会・CPD拡大委員会………松下 重雄
 12月20日、JIA館にて開催。報告事項として、(1)アーキテクツガーデン、(2)支部選挙結果、(3)財政状況が報告された。支部役員選挙では、長野地域会の松下を含む全員が決定。(JIA東京のみ補欠選挙実施)財政状況では、賛助会費の未納が深刻な状況。また、本部関係では支部長会議に関東甲信越は数名のオブザーバー出席を求める方針が決まった事、会員種別と会費の見直しを02年度中に行う等が報告された。
 次に、3件の承認と2件の協議事項に続き、CPD拡大委員会が行われ、02年度の認定プログラムと自主研修報告が行われたが、どちらも極めて低い参加状況のため、各地域会での奨励が申し渡された。

第11回文化講演会

昨今、業界内で問題視されており、公共建築の設計者選定を巡って、透明性や客観性などから、現在注目されている「公開プロポーザル方式」や「QSB方式」。建築家の中でこれらの選定方式にて次々と当選されている早稲田大学教授・古谷誠章先生のご講演です。コンペから実践へのプロセス、また、地元・茅野市の市民会館での市民とのワークショップ等の様々な仕事の展開をお聞きしたいと思います。ご講演後のパネルディスカッションも企画しております。奮ってご参加ください。(CPD2単位)

◆日時:2003年3月5日(水) 14:00~
 ◆会場:松本・東急イン ◆講師:早稲田大学 古谷誠章氏
 〈申込先〉事務局 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

JIA長野県クラブの出版物ご案内

あなたの夢を建築家が実現します!!

信州で「家づくり」に情熱を傾ける建築家を一挙紹介!!
 「設計を建築家に頼みたいが、敷居が高い……」とお考えのあなたに、建築家一人一人の「仕事」を写真と文章で紹介。
 家づくりの最良のパートナーに出会える一冊です。

既刊本「愛と情熱の家づくり」定価¥1,429

既刊本「建築家とつくる家」定価¥1,429

お問い合わせ・お求め

JIA長野県クラブ

長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897



新入会員のご紹介

安達政英……………安藤建築設計工房/上田市古安曾3886-1
 山田健一郎……………山田建築設計室/松本市横田4-11-4

編集後記……………山口康憲
 今年の冬は気象庁の長期予報では暖冬とのことでしたが、私の住んでいる佐久の地ではここ10年以上記憶にないほどの寒い厳しい冬となりました。雪も非常に多く、日陰は寒さから殆ど融けない為に置き場所にも困っています。元来佐久地方の冬は基本的には太平洋側の気候で積雪量はそんなに多くなかったのですが、この6年間で3回目の大雪の年となり、多雪地域と呼んでも差し支えないと思っています。私が設計した建物でも日陰の緩勾配の屋根の砂漏れや軒樋の崩落が発生しています。雪が多くかつ寒い地域の屋根の形状と軒先の納まりを真剣に考えなければならぬようです。



編集人 西沢利一
 発行人 松下重雄
 発行所 JIA長野県クラブ
 長野市南長野妻科426-1
 長野県建築士会館内
 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
 作成 アッカグラフィックス/新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。